

主な内容

- 2面 ■ サンパール荒川が大規模改修のため休館します
- 6面 ■ 区民住宅・都営住宅入居者を募集

発行 ■ 荒川区 ☎(3802)3111 〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3/毎月1日・11日・21日/80000部発行

奥の細道千住あらかわサミット 荒川区は「俳句のまち」を宣言します



松尾芭蕉、小林一茶、正岡子規等が訪れ、俳句を詠んだ地である荒川区で、更に俳句文化を振興するため、奥の細道千住あらかわサミットの開催に合わせ、「荒川区俳句のまち宣言」を行います。
この宣言は、荒川区が「俳句のまち」であることを区内外へ強く発信し、子どもから大人まで俳句文化の裾野を広げ、豊かな俳句の心を育むことを目指して行うものです。俳句に造詣の深い有識者による起草委員会を設置し、意見・助言を受けて作成しています。宣言文は、サミット開催記念イベントの冒頭で発表します。今号では、「俳句のまち」荒川区を盛り上げるサミット開催記念のイベントなどを紹介します。



奥の細道千住あらかわサミット

3月14日(土)

いま発たん 矢立初めの地あらかわ

奥の細道矢立初めの地である荒川区で、奥の細道ゆかりの団体が一堂に集い、芭蕉の業績の顕彰や相互連携・交流を目的としたサミットが開催されます。当日は、開催記念のイベントを行います。

★「荒川区俳句のまち宣言」発表

★奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会

今回で5回目を迎える子ども俳句相撲大会を、サミット記念大会として開催します。2人1組の小学生チームがトーナメント方式で俳句横綱の座を競います。

★記念講演会

俳人・有馬朗人氏を講師に招き、「俳句」や「奥の細道」についてお話し頂きます。



有馬氏は、原子核物理学者で山口青柳門下の俳人。俳誌「天為」主宰、句集に「天為」、「流轉」。東京大学総長、文部大臣、科学技術庁長官等を歴任。国際俳句交流協会会長、現武蔵学園学園長、静岡文化芸術大学理事長。文化勲章受章



▲子ども俳句相撲大会の様子(25年度)

★矢立初めの地あらかわフォト俳句コンテスト表彰式

26年7月～11月に募集し、約1000句の投句があった「矢立初めの地あらかわフォト俳句コンテスト」特選受賞者を表彰します。

日時 3月14日(土)午後1時～4時30分(午後0時30分開場)

会場 日暮里サニーホール(駐車場、駐輪場はありません)

定員 300人(抽選)

申込み方法 はがきまたはファクスで、代表者の郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・参加人数(3人まで)・同伴者の氏名・年齢を記入し、〒100-8502(住所不要)奥の細道千住あらかわサミットイベント事務局(東京新聞広告局内)宛て(FAX(3502)7227)2月27日(金)必着

*ホームページ(<http://www.senjuarakawa.com/>)からも申し込めます

*当選者には、参加証を送付します

問合せ ▷奥の細道サミット・記念講演会・フォト俳句コンテスト表彰式について

…観光振興課 ☎内線 461

▷荒川区俳句のまち宣言について…文化交流推進課 ☎内線 2521

▷子ども俳句相撲大会について…荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

これまでに実施した記念事業

★旅立ちの日記念バスツアー(26年5月)

★千住まちあるきツアー(26年10月)

★芭蕉の大橋渡り(26年11月) 他



▲芭蕉の大橋渡りの様子

荒川ふるさと文化館企画展 奥の細道・旅立ち展

2月21日(土)～3月22日(日)

矢立初めの地・千住にスポットを当てた奥の細道の企画展です。「おくのほそ道」の江戸時代の版本を初め、芭蕉自筆の短冊や懐紙、奥の細道に関する絵画、松尾芭蕉の碑(区指定有形文化財・素盞雄神社)等から、この地域が奥の細道ゆかりの地としてどのように表現されてきたのか、地域の人々が芭蕉や奥の細道の旅をとりまく歴史をどのように記憶してきたのかを探求します。

日時 2月21日(土)～3月22日(日)午前9時30分～午後5時(入館は、午後4時30分まで)

*月曜日は休館です

入館料 100円

*区内在住の、中学生以下・65歳以上・障がい者とその介助者の方は無料

*2月21日(土)・22日(日)、3月21日(祝)・22日(日)のあらかわ家族の日は、区内在住の中学生以下のお子さんと一緒に来館した家族の方も無料



企画展関連イベント

①記念講演会「おくのほそ道」はどう読まれてきたか?

～その受容と実践(無料)

日時 3月15日(日)午後2時～4時30分

②史跡めぐり～千住宿句碑めぐり(無料)

日時 3月7日(土)午前10時～午後0時30分

③展示解説

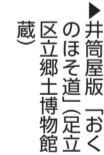
直接会場へお越し下さい。

日時 2月28日(土)・3月22日(日)午後1時30分から

*入館料がかかります

申込み方法 ①・②は、2月11日(祝)から電話で

*企画展関連イベントの詳細は、区報2月11日号でお知らせします



▲井筒屋版「おくのほそ道」(足立区立郷土博物館蔵)



▲扇面芭蕉「行く春や鳥啼魚の目は涙」(大垣市守屋多々志美術館蔵)

会場・申込み・問合せ

荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234 FAX(3803)7744

荒川区は、芭蕉のみならず小林一茶、正岡子規など著名な俳人が訪れ、四季の情景を俳句に詠んだ地でもあります。五七五の十七文字に、雄大な風景や人生観までを詠み込む俳句。「おくのほそ道」の英訳など日本文学・文化研究の第一人者、ドナルド・キーン氏が『世界で一番短い詩』と評価するうちに、俳句は世界中に普及し親しまれています。最近では、俳句をユネスコの無形文化遺産へ登録しようという動きも始まっています。世界に誇る日本文化である俳句。そのゆかりの地として、これからも一層、荒川区の魅力伝えて参ります。

行く春や鳥啼魚の目は涙
これは、「おくのほそ道」の中で、松尾芭蕉が千住から旅立つ際に詠んだ矢立初めの句です。
いよいよ来たる3月14日、奥の細道ゆかりの団体が集う「奥の細道千住あらかわサミット」を開催します。これまで、区ではさまざまな記念事業を行って参りましたが、サミット当日にも、講演会や小学生による俳句相撲大会などの記念イベントを行います。これを機に、多くの方に俳句の楽しさに触れて頂きたいと思えます。また、3月初旬には南千住駅西口駅前松尾芭蕉像を建立し、奥の細道ゆかりの地として全国に発信して参ります。



荒川区長・特別区長会会長
西川 太一郎

矢立初めの地千住、荒川区から俳句文化の振興を進めます

